

トラックが配送を終え、会社に戻る途中

85歳の女性がはねられ死亡

街路灯がなく、暗くて、見通しが悪かった

2015年3月28日(土)12時27分

27日午後8時前、埼玉県の市道で、85歳の女性がトラックにはねられ、死亡しました。警察はトラック運転手の男を逮捕し、事故の原因などを調べています。警察によりますと、容疑者は事故当時、積み荷の食料品などを納入後、会社に戻る途中で、取り調べに対し、「運転していてぶつかった」などと容疑を認めているということです。現場の市道はカーブが続いているうえ、街路灯がほとんどなく、事故当時は見通しが悪かったということです。

児童・生徒・高齢者 自転車・歩行者に注意！

地域住民への“泥はね”注意！

バック時は降りて確認 乗っても確認

追突、玉突き事故を防ぐ 交差点手前で止まる時は車1台分のスペースを空けて止まる

交差点 「右左確認／よ～し！」

◆高齢者・子供・自転車に注意◆

◆飛び出しに注意 (自転車・子供)◆

トラックからスチール棚落下、後続の乗用車の乳児死亡

後続の乗用車が急ブレーキ⇒後続のトラック追突

◆荷締めの確認、急な対応、車間距離を十分に◆

2015年3月28日(土)21時11分

28日午後1時15分頃、石川県の北陸自動車道で、会社員の男性(21)の乗用車にトラックなど車2台が追突した。男性の車の後部座席に乗っていた生後2か月の長男が頭を強く打ち死亡、男性と妻(21)も軽傷を負った。男性の前を走っていたトラックからスチール製の棚が落下し、急ブレーキをかけた男性の車に、後続のトラックなどが追突したという。

ドライブレコーダーの導入効果

7割以上が「危険運転が減少した」と回答

2015/03/26 全日本トラック協会 特別編集

全日本トラック協会は3月25日、「平成26年度ドライブレコーダーの導入効果に関する調査報告書」を発表した。調査結果によると、ドライブレコーダーの装着率は全体で74.4%。

ドライブレコーダーを導入した目的・理由は、多くの事業所が、交通事故防止(87.6%)および安全運転指導(82.9%)と回答。次いで、事故処理の効率化(69.6%)、運転状況の監視・確認(63.1%)が続き、燃費改善(省エネ運転指導)を目的にする事業者数は、25.9%に留まっている。

導入効果については、「運転者の安全意識が高まった(危険運転減少)」とする事業所が72.2%、「安全運転指導に活用できた」という事業所も61.4%と高い割合を占めた。事故(第一当事者)が減ったと回答した事業所も76事業所(5.5%)あり、事故件数は、月当たり平均1.31件が0.57件に減少したという。また、事故発生時にドライブレコーダーの映像により「事故処理に役立った」という事業所は、522事業所(38.1%)で全体の約4割となり、自車に過失がないことが証明されたなどの事例も報告されている

朝方まで酒を飲んでいて

市職員、酒気帯び運転で自転車に追突逮捕

(2015年03月29日 18時03分)

29日午前9時ごろ、富山県の市道で自転車に乗用車が追突し、自転車に乗っていた女性が左足の骨を折るなどの重傷を負いました。警察は車を運転していた市職員の男を過失運転傷害と酒気帯び運転の疑いで現行犯逮捕しました。警察によりますと、容疑者は朝方まで酒を飲んでいて、「ブレーキを踏んだが間に合わなかった」と供述している。